

はじめに

近年、開業率の低下が懸念される中、経済に活力を与える創業や新分野進出への期待が高まっています。

このような状況のもと、当センターは産学官 33 機関により構成する「とちぎベンチャーサポートプラネット 2 1」の中核的機関として関係機関と連携したワンストップサービスの推進をはじめ、中小企業等の皆様の経営・技術・研究開発・設備資金・情報化・人材育成などについて総合的に支援しております。

この調査は、創業や新事業展開に関する各種施策を効果的に推進するための基礎資料を得ることを目的として、平成 15 年 2 月に実施したものです。

関係企業及び機関の皆様には、お忙しい中調査にご協力をいただきまして、まことにありがとうございました。

平成 15 年 3 月

財団法人 栃木県産業振興センター
理事長 渡邊 利一

目 次

・ 調 査 概 要	1
・ 調 査 結 果	5
1 経営全般について	
(1) 最近 3 年間の売上高の状況	5
(2) 自社の事業の優位性として考えられるもの	6
(3) 現在、特に力を入れているもの	7
(4) 現在、直面している問題点	7
2 経営者自身について	
(1) 性別	8
(2) 創業者であるか	8
(3) 年齢	9
(4) 社長に就任した年齢	9
(5) 今までの経歴	10
(6) 今までに勤務した企業数	10
(7) 経営者になるために特に力を入れたこと	11
3 創業について	
(1) 創業の目的	12
(2) 創業に踏み切った直接のきっかけ	12
(3) 現在の事業分野を選定した理由	13
(4) 創業費用	13
(5) 創業時の資金調達先	15
(6) 創業時の問題点	16
4 開業・創業について	
(1) 開業率低下、創業の妨げになっていると思われる事項	17
(2) 創業やベンチャー企業のために有効と思われる支援策	18
5 今後の事業展開の予定について	19
6 経営者になった満足度について	21
7 自由意見	23
・ 調 査 票	25

． 調 査 概 要

1 ． 調 査 目 的

県内企業における創業時の状況や取り組みの実態を把握し、もって創業や新事業展開に関する各種施策を効果的に推進するための基礎資料を得ることを目的とする。

2 ． 調 査 時 期

平成 1 5 年 2 月

3 ． 調 査 方 法

郵送によるアンケート方式

4 ． 調 査 対 象 企 業

県内中小企業 1,500社（無作為抽出）

5 ． 調 査 票 回 収 状 況

- | | |
|-------------|-------|
| (1) 有効回答企業数 | 618社 |
| (2) 有効回答率 | 41.2% |

6 ． 端 数 処 理

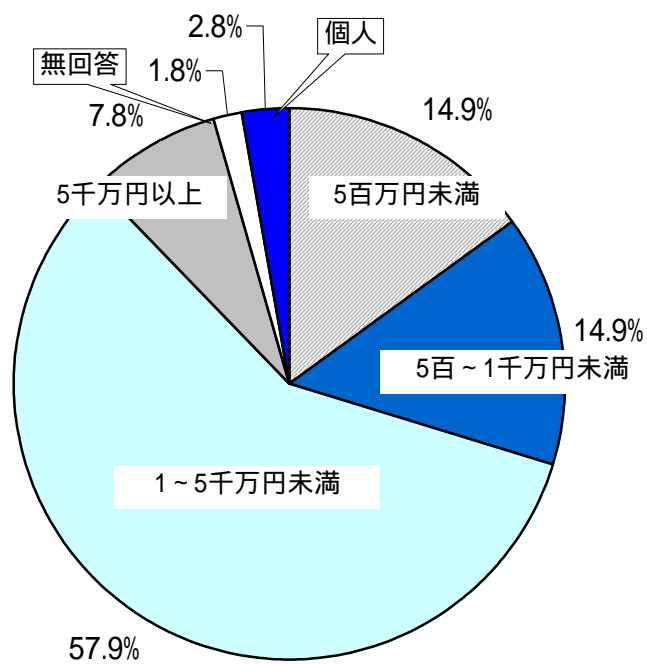
構成比（%）の合計値は端数処理（四捨五入）の関係で100%にならないことがある。

7. 回答企業（618社）の内訳

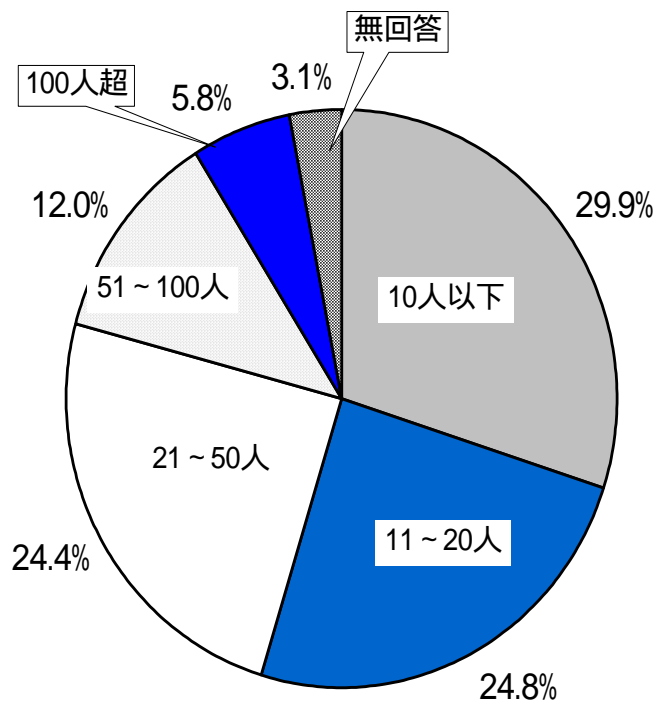
(1) 業種別

業種	回答企業数(社)	構成比(%)
製造業	337	54.5
卸売業	49	7.9
小売業	39	6.3
サービス業	142	23.0
建設業	51	8.3
合計	618	100.0

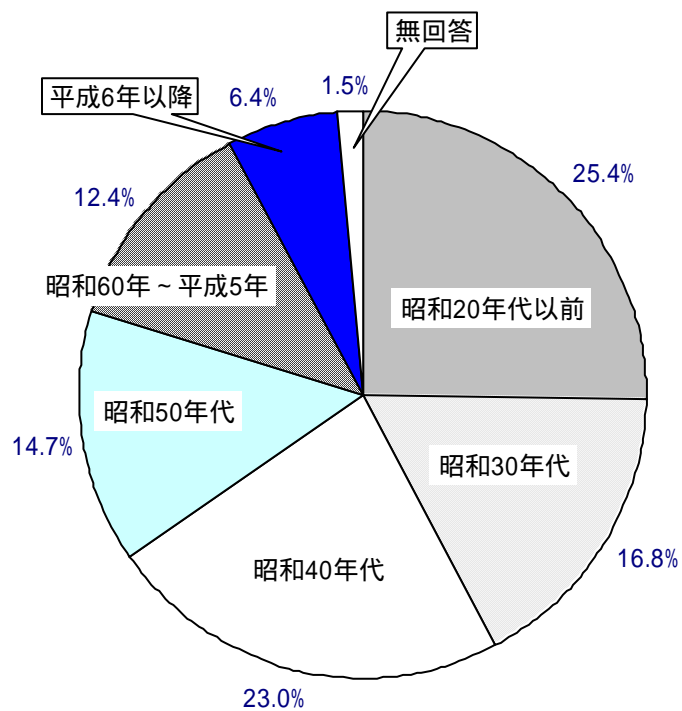
(2) 資本金別



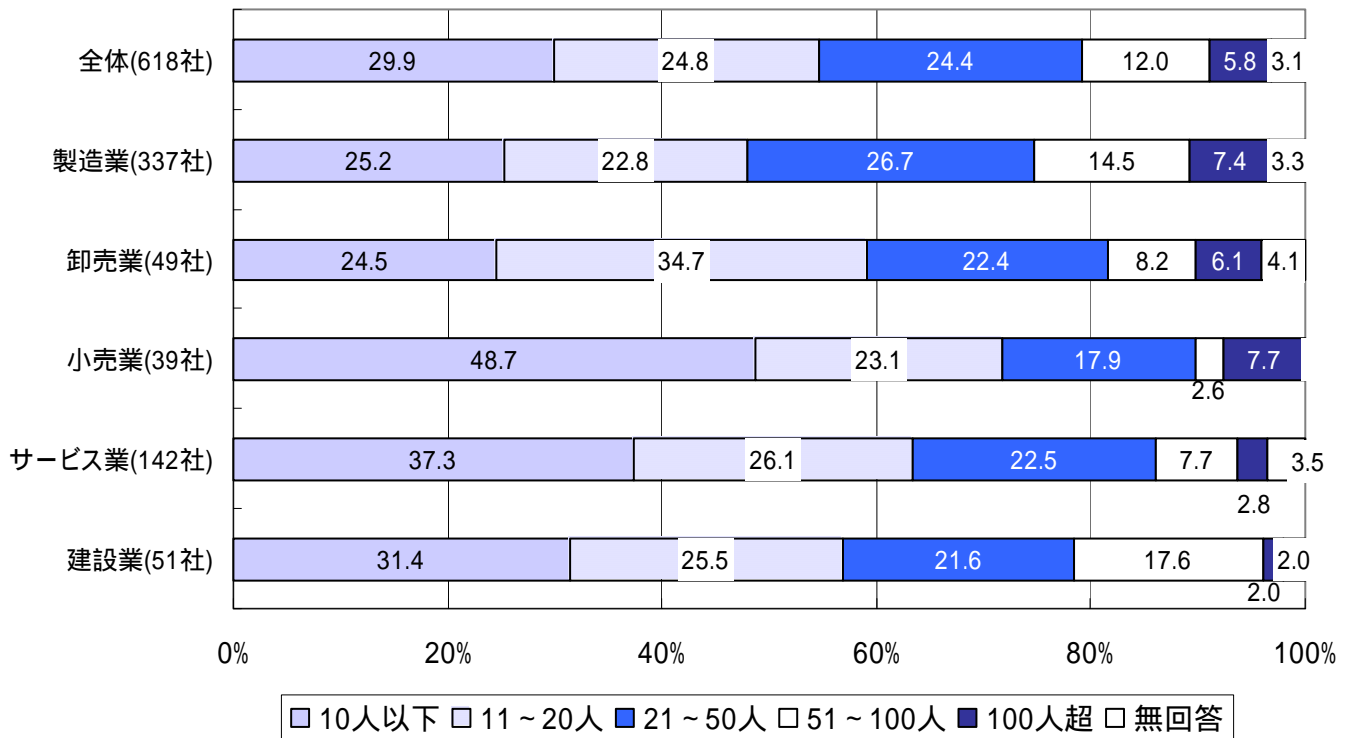
(3) 従業員数別



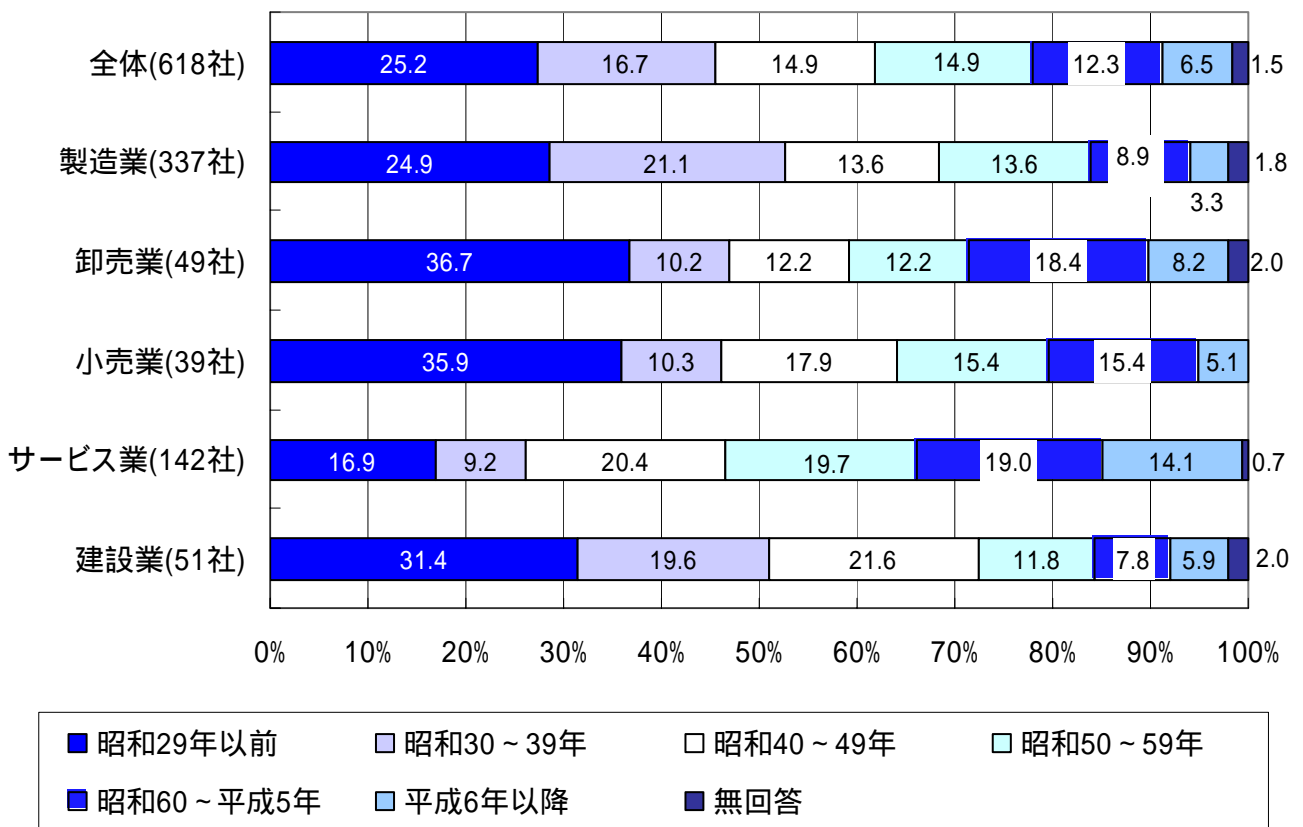
(4) 創業年度別



(5) 業種別・従業員数別構成



(6) 業種別・創業年度別構成



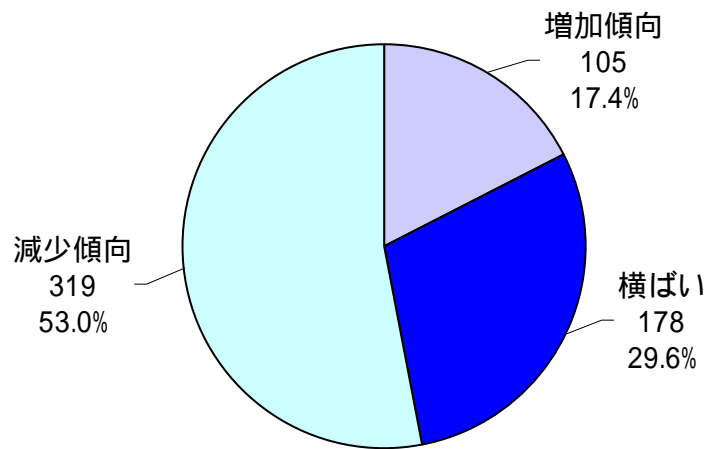
調査結果

設問によっては回答が無かった場合があるため、一部を除き有効回答データをもとに分析を行った。

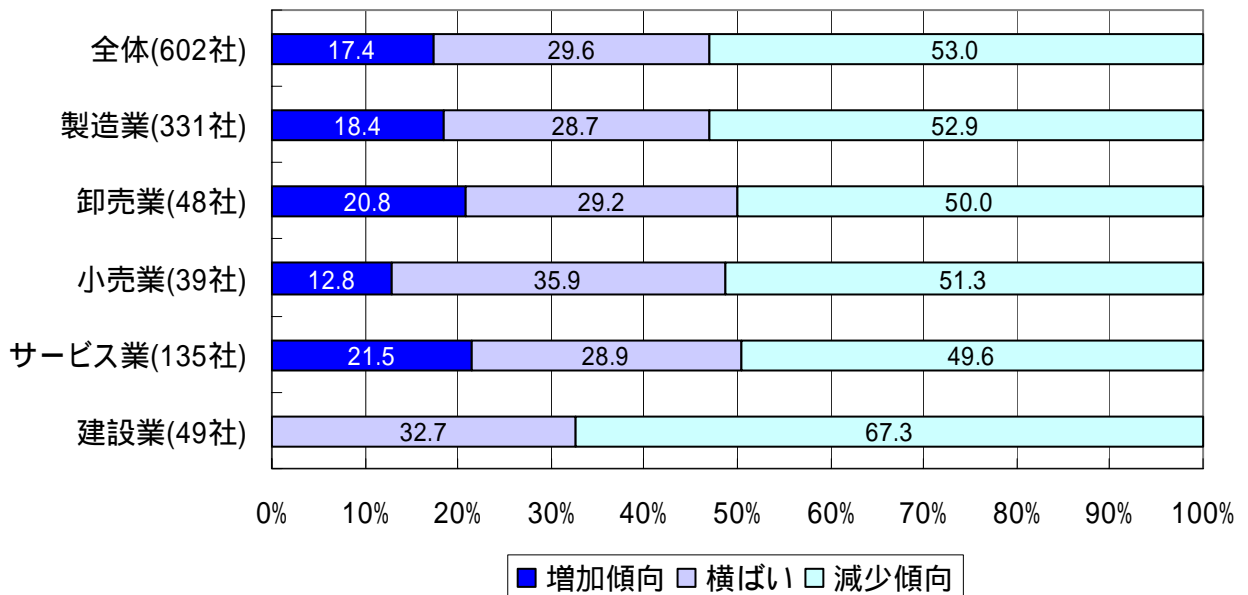
1 経営全般について

(1) 最近3年間の売上高の状況

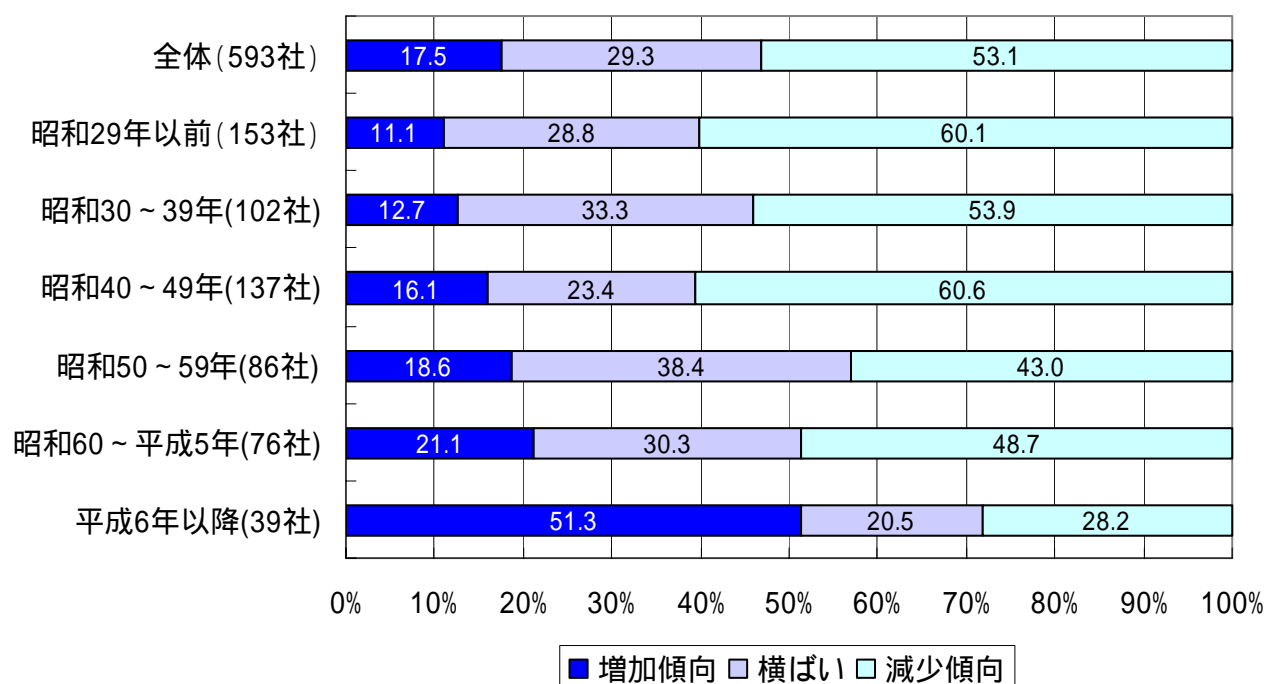
「増加傾向」は17.4%にとどまり、半数以上が「減少傾向」(53.0%)にある。



なお、業種別に見ると、全業種において5割前後が「減少傾向」にある。特に建設業においては3分の2以上が「減少傾向」にあり、「増加傾向」は見られない。

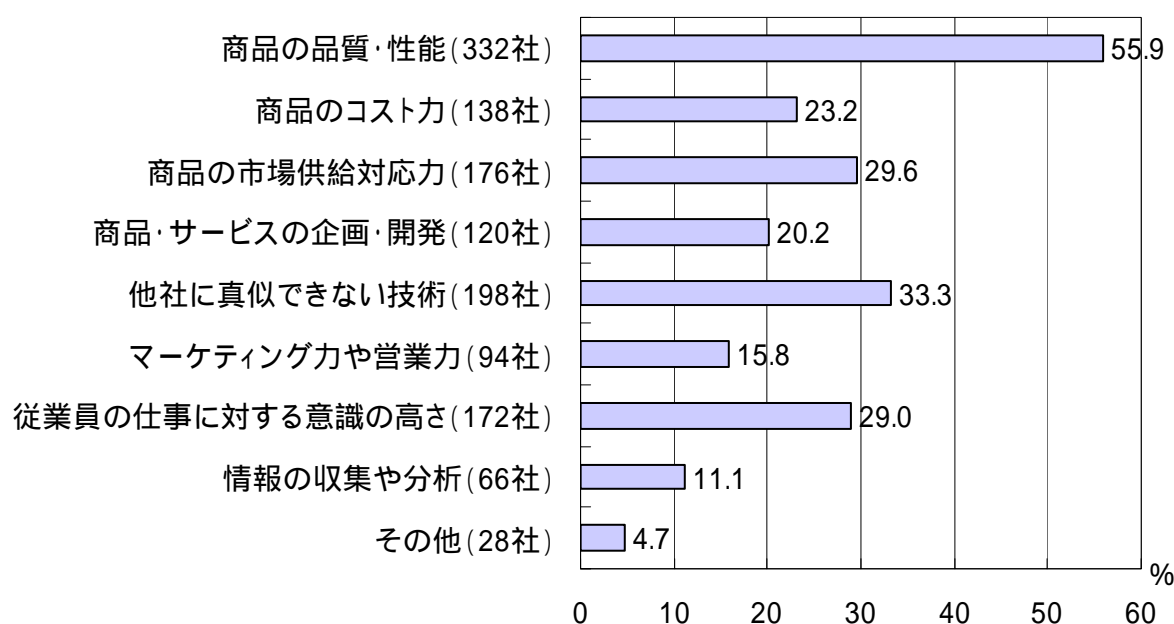


また、創業年度別に見ると、新しい企業ほど「増加傾向」の割合が高い。特に平成6年度以降創業の企業においては半数以上が「増加傾向」にある。



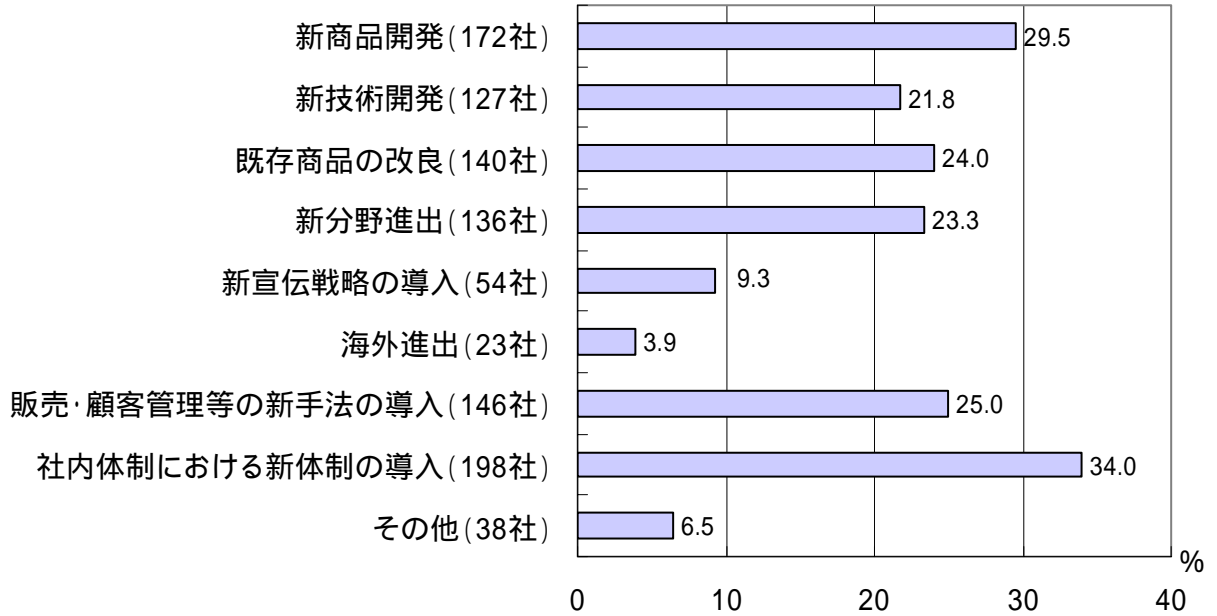
(2) 自社の事業の優位性として考えられるもの (複数回答)

「商品の品質・性能」(55.9%)が最も多く、次いで、「他社に真似できない技術」(33.3%)、「商品の市場供給対応力」(29.6%)、「従業員の仕事に対する意識の高さ」(29.0%)の順となっている。



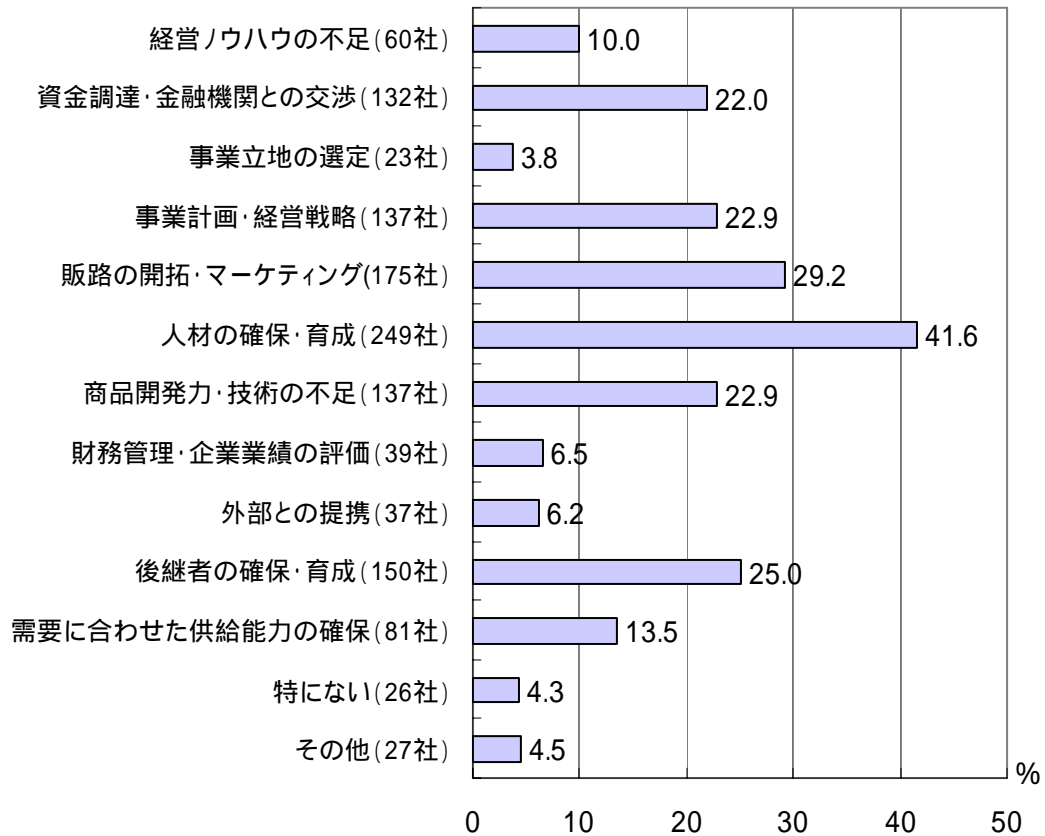
(3) 現在、特に力を入れている活動（複数回答）

「社内体制における新体制の導入」(34.0%)が最も多く、次いで「新商品開発」(29.5%)、「販売・顧客管理等の新手法の導入」(25.0%)、「既存商品の改良」(24.0%)、「新分野進出」(23.3%)の順となっている。



(4) 現在、直面している問題点（複数回答）

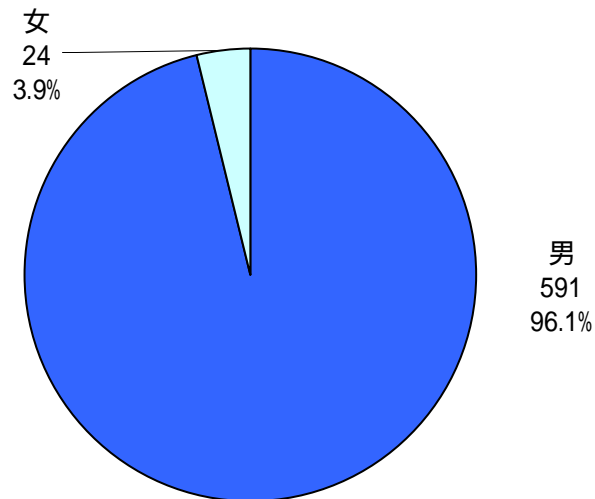
「人材の確保・育成」(41.6%)が最も多く、次いで「販路の開拓・マーケティング」(29.2%)、「後継者の確保・育成」(25.0%)の順となっている。



2 経営者自身について

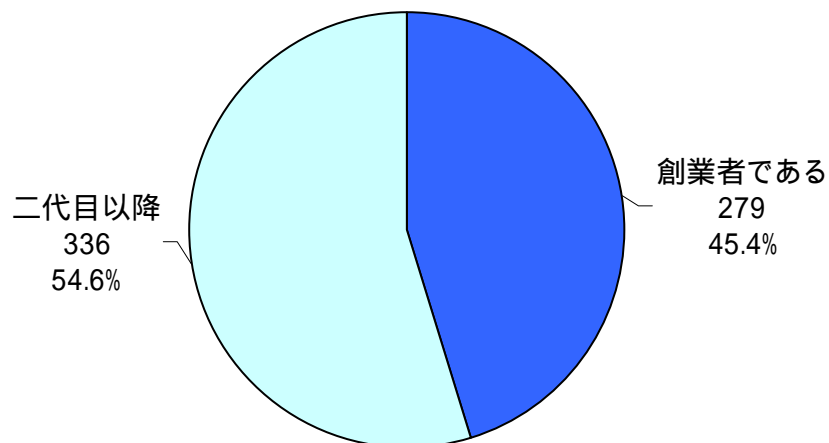
(1) 性別

男性が 591 人 (96.1%)、女性が 24 人 (3.9%) となっている。



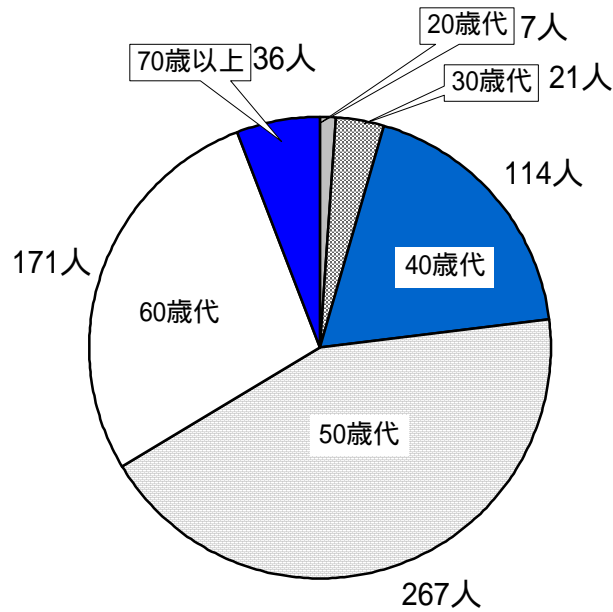
(2) 創業者であるか

創業者が 279 人 (45.4%) で、二代目以降が 336 人 (54.6%) となっている。



(3) 年齢

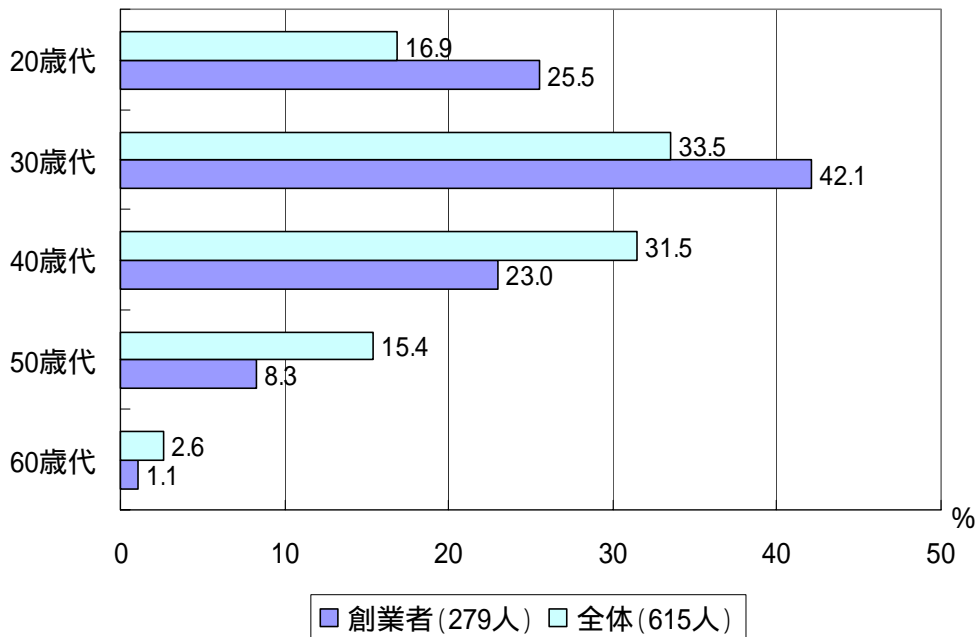
50歳代が267人(43.3%)と最も多く、また20~30歳代の青年社長は28人(4.5%)であった。



(4) 社長に就任した年齢

「30歳代」(33.5%)が最も多く、次いで「40歳代」(31.5%)、「20歳代」(16.9%)となっている。

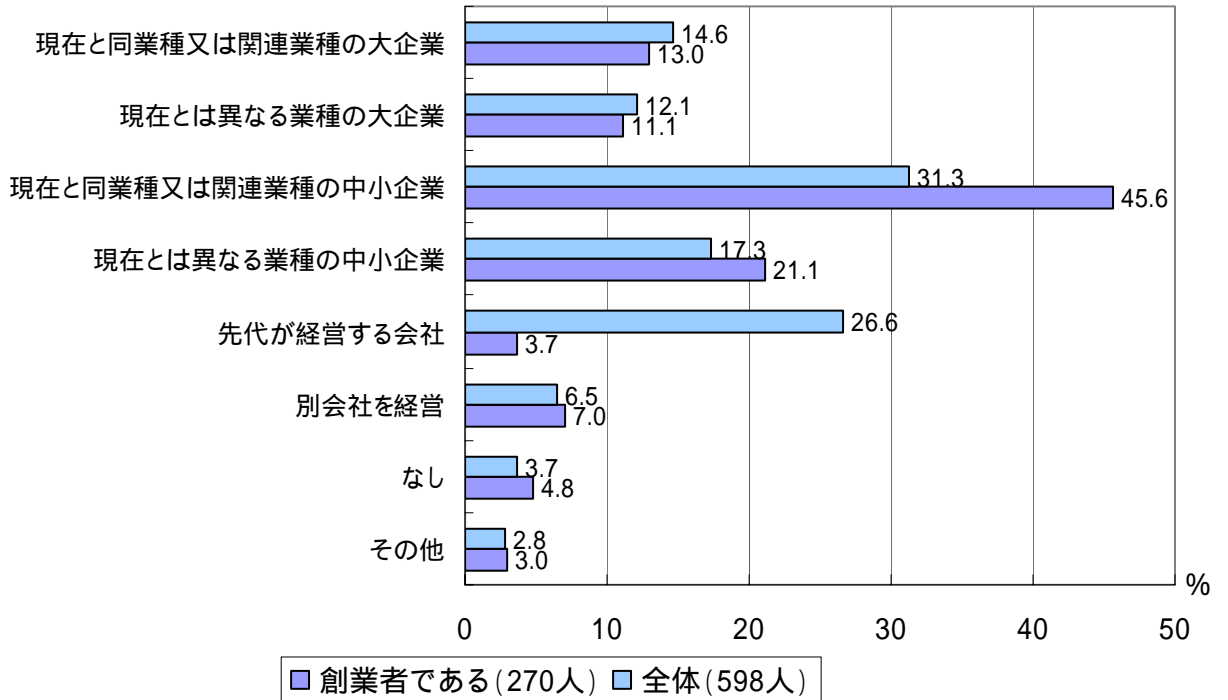
なお、創業社長のおよそ3分の2が20~30歳代で就任している。



(5) 今までの経歴（複数回答）

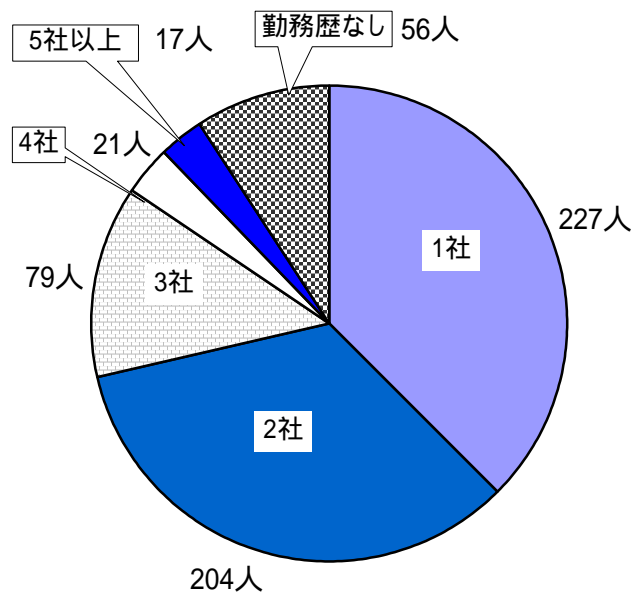
「現在と同業種又は関連企業の中小企業」(31.3%)が最も多く、次いで「先代が経営する会社」(26.6%)、「現在とは異なる業種の中小企業」(17.3%)の順となっている。

なお、創業社長は「現在と同業種又は関連企業の中小企業」(45.6%)が最も多く、次いで「現在とは異なる業種の中小企業」(21.1%)となっている。



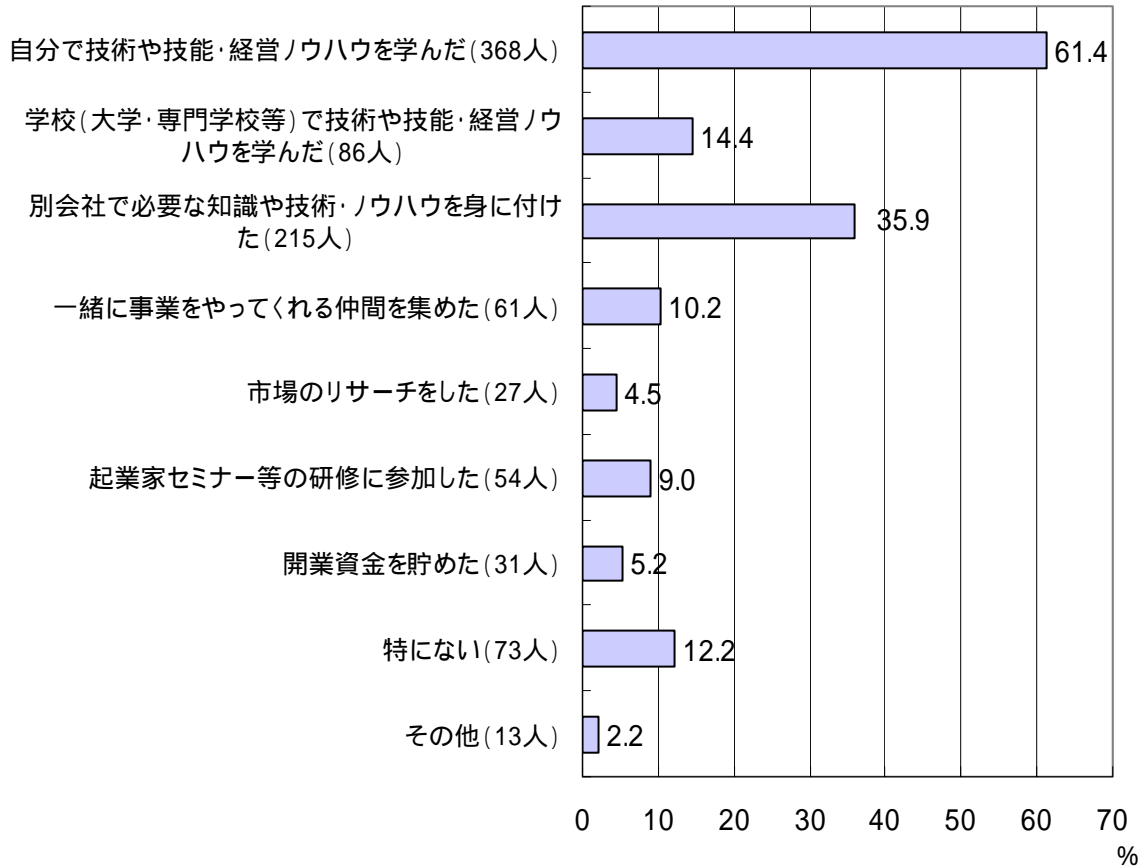
(6) 今までに勤務した企業数

およそ7割が「1社」または「2社」と回答している。



(7) 経営者になるために特に力を入れたこと(複数回答)

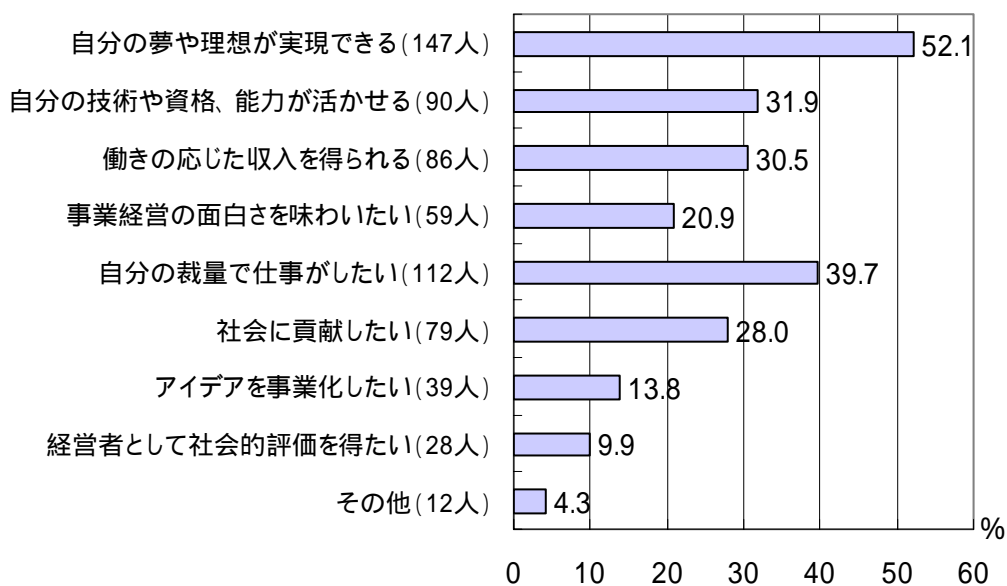
「自分で技術や技能・経営ノウハウを学んだ」(61.4%)が最も多く、次いで「別会社で必要な知識や技術・ノウハウを身に付けた」(35.9%)の順となっている。



3 創業について【創業者に対して質問】

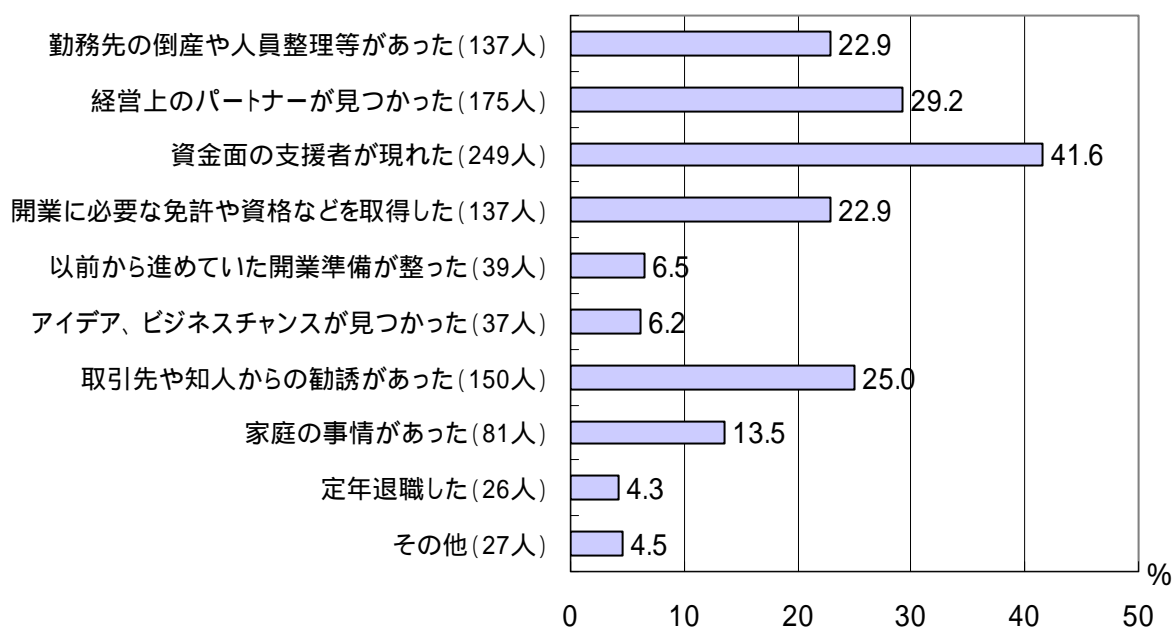
(1) 創業の目的（最も当てはまるもの3つ）

「自分の夢や理想が実現できる」(52.1%)が最も多く、次いで、「自分の裁量で仕事がしたい」(39.7%)、「自分の技術や資格、能力が活かせる」(31.9%)、「働きに応じた収入を得られる」(30.5%)の順となっている。



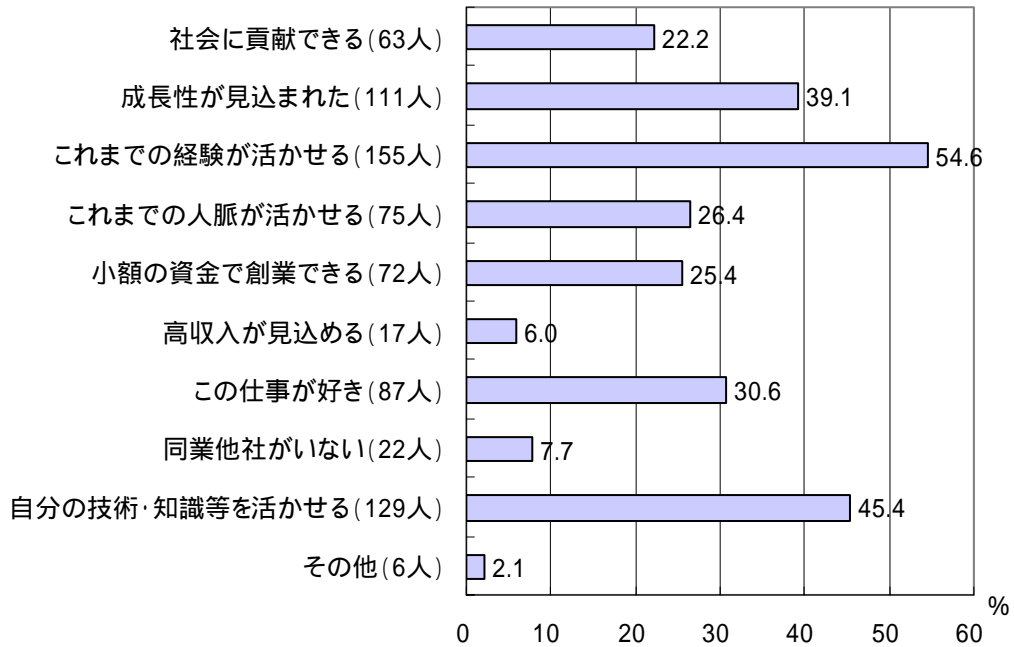
(2) 創業に踏み切った直接のきっかけ（複数回答）

「資金面の支援者が現れた」(41.6%)が最も多く、次いで、「経営上のパートナーが見つかった」(29.2%)、「取引先や知人からの勧誘があった」(25.0%)、「勤務先の倒産や人員整理等があった」(22.9%)、「開業に必要な免許や資格を取得した」(22.9%)の順となっている。



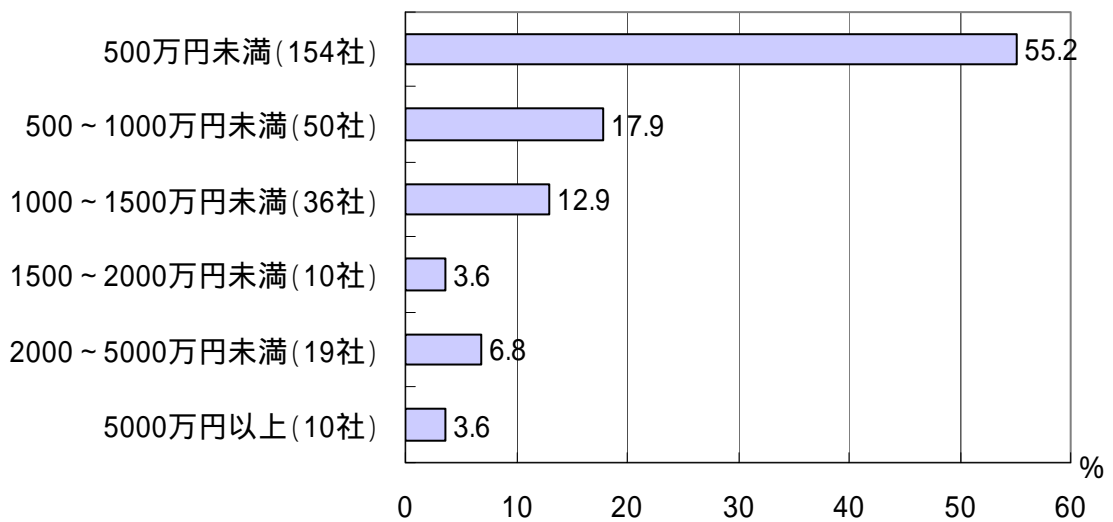
(3) 現在の事業分野を選定した理由（複数回答）

「これまでの経験が活かせる」(54.6%)が最も多く、次いで、「自分の技術・知識等を活かせる」(45.4%)、「成長性が見込まれた」(39.1%)、「この仕事が好き」(30.6%)の順となっている。

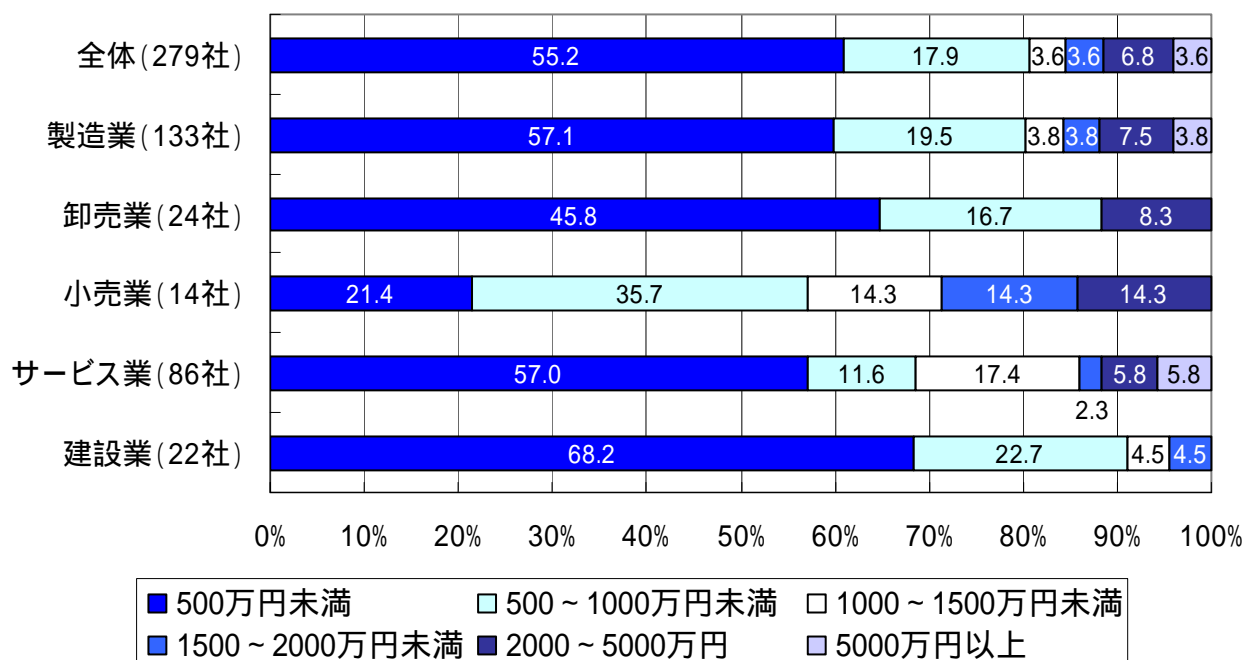


(4) 創業費用

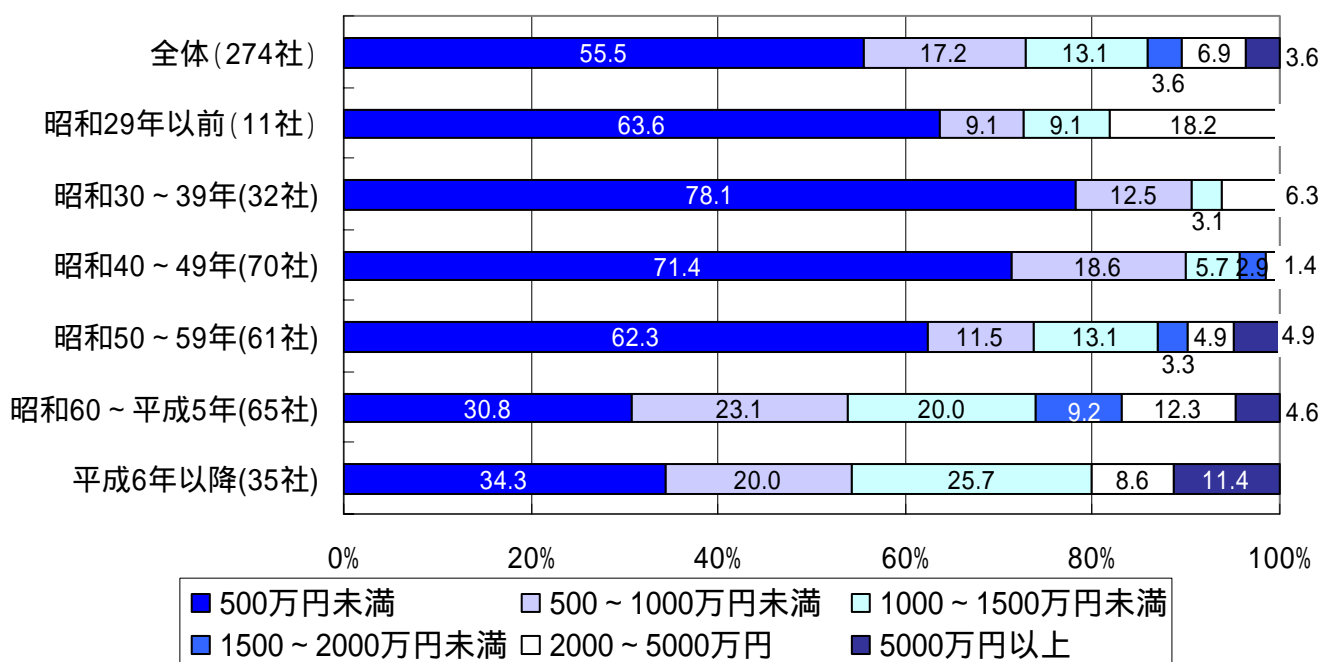
半数以上の企業が500万円未満で創業している。



業種別に見ると、500万円未満の企業が最も多いのは建設業で（68.2%）、一方小売業は1000万円以上の企業（42.9%）が最も多い。



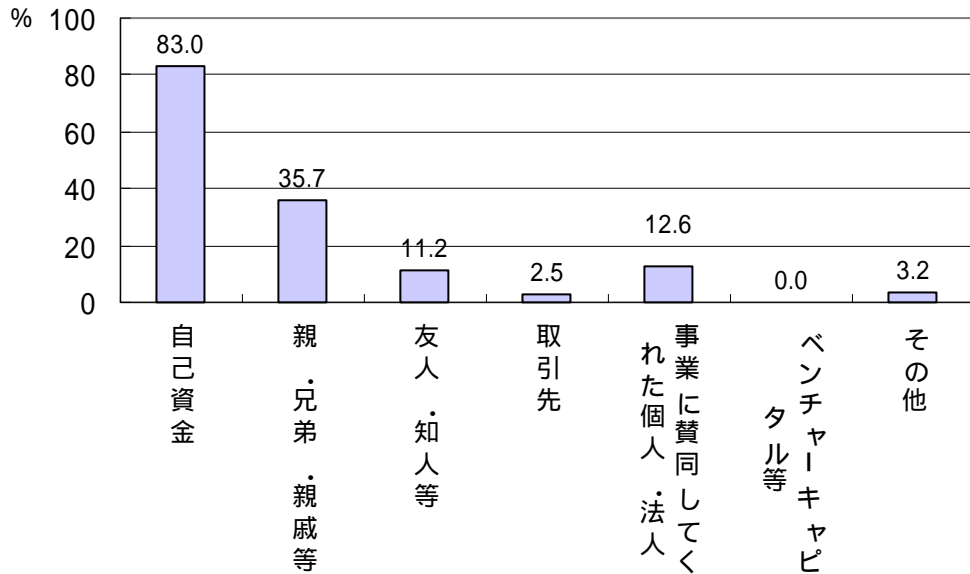
また、創業年度別に見ると、昭和50年代までの創業企業は6割以上が500万円未満であったが、昭和60年代以降は3割台に半減している。平成6年以降は、11.4%の企業が5000万円以上であった。



(5) 創業時の資金調達先（複数回答）

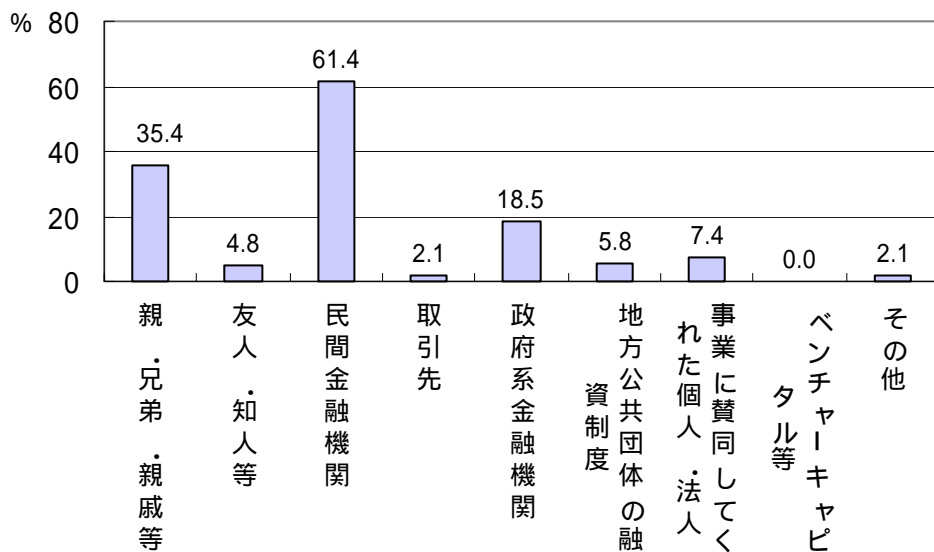
出資

「自己資金」(83.0%)が最も多く、「親・兄弟・親戚等」(35.7%)、「事業に賛同してくれた個人・法人」(12.6%)の順となっている。ベンチャーキャピタル等を利用した企業は皆無であった。



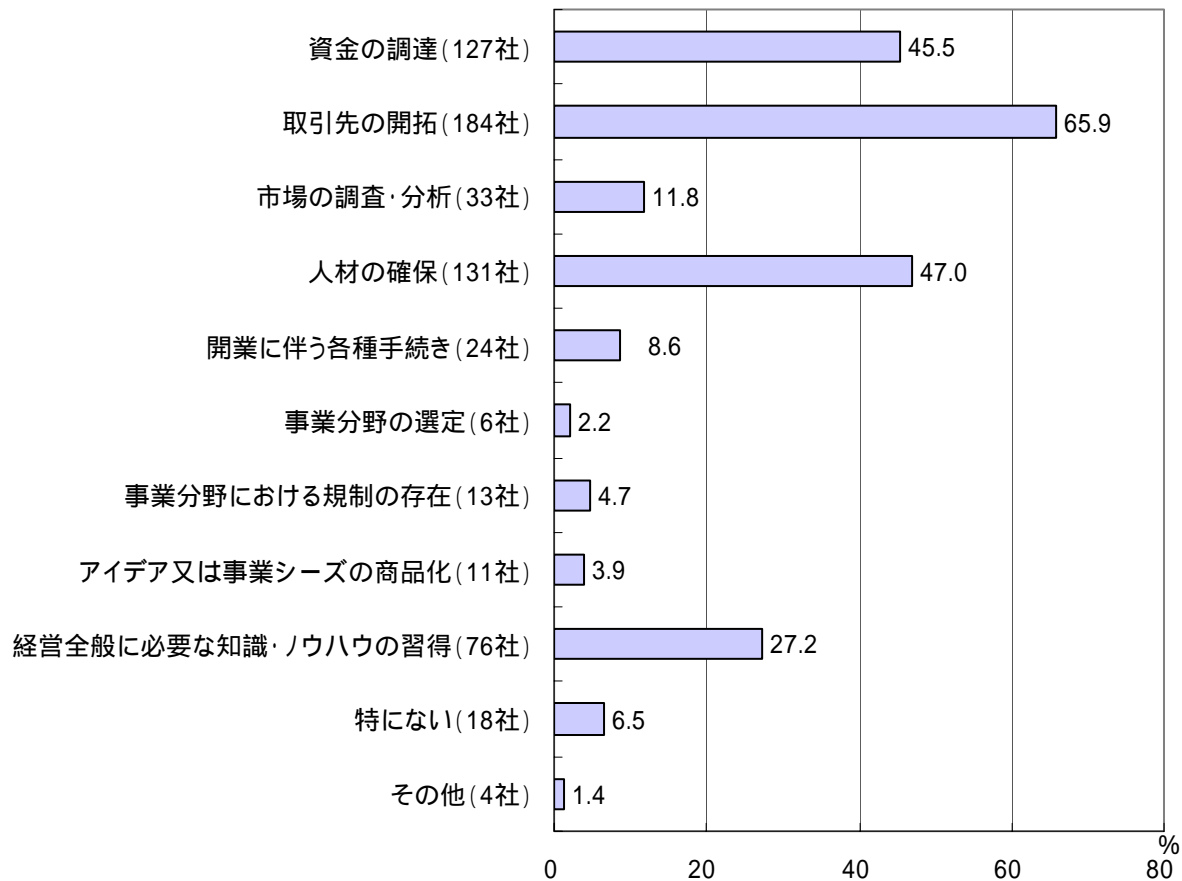
借入

「民間金融機関」(61.4%)が最も多く、「親・兄弟・親戚等」(35.4%)、「政府系金融機関」(18.5%)の順となっている。ベンチャーキャピタル等を利用した企業は皆無であった。



(6) 創業時の問題点(複数回答)

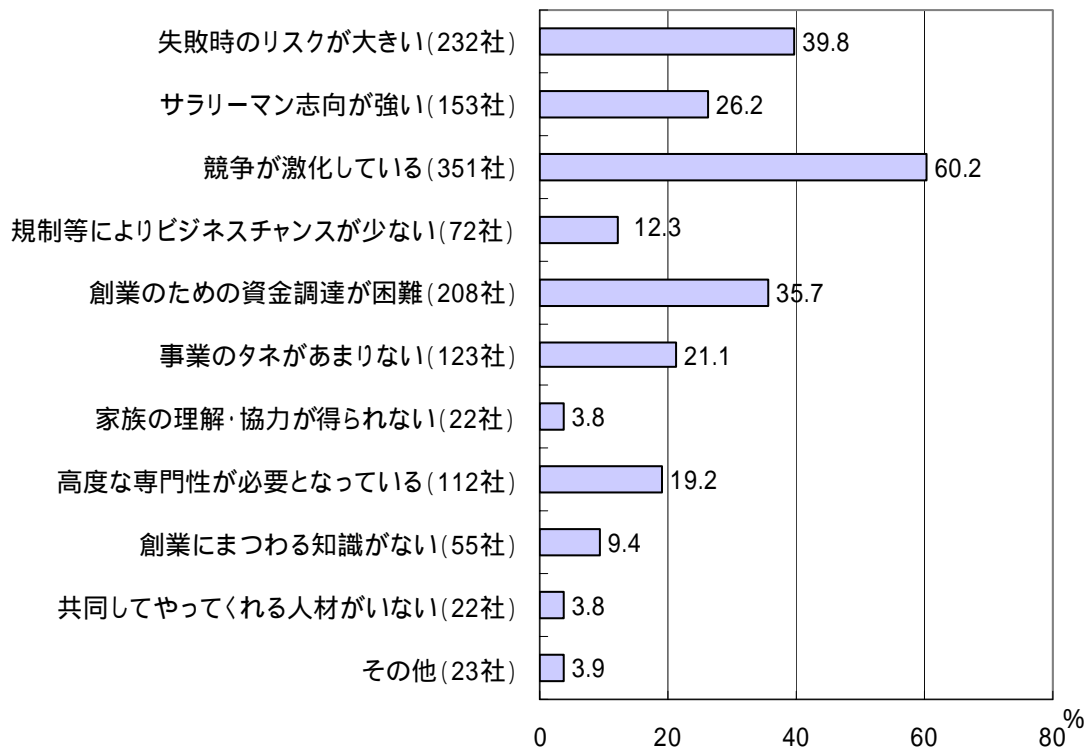
「取引先の開拓」(65.9%)が最も多く、次いで、「人材の確保」(47.0%)、「資金の調達」(45.5%)、「経営全般に必要な知識・ノウハウの習得」(27.2%)、「市場の調査・分析」(11.8%)の順となっている。



4 開業・創業について

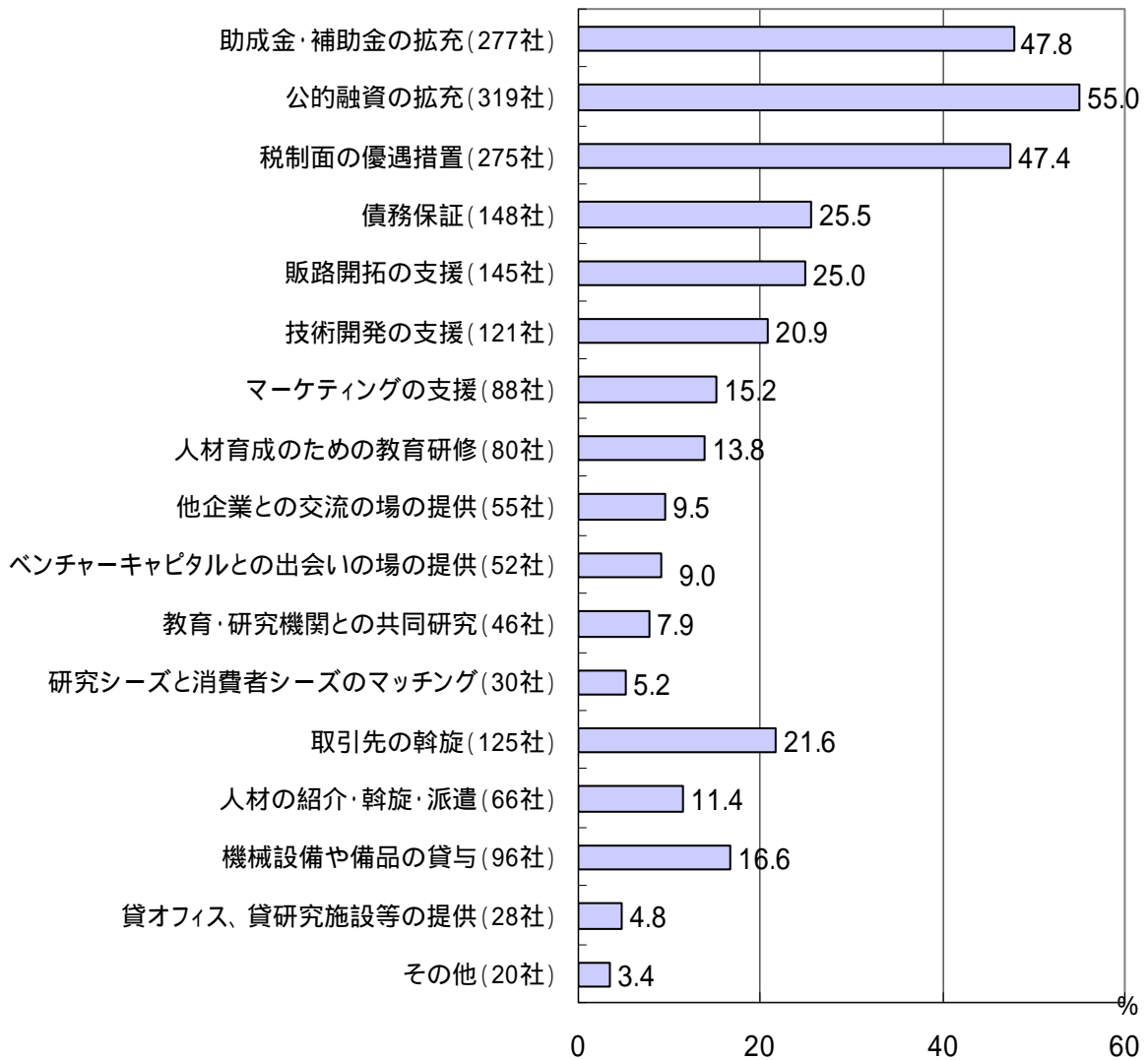
(1)開業率低下、創業の妨げになっていると思われる事項（複数回答）

「競争が激化している」(60.2%)が最も多く、次いで「失敗時のリスクが大きい」(39.8%)、「創業のための資金調達が困難」(35.7%)、「サラリーマン志向が強い」(26.2%)、「事業のタネがあまりない」(21.1%)の順となっている。



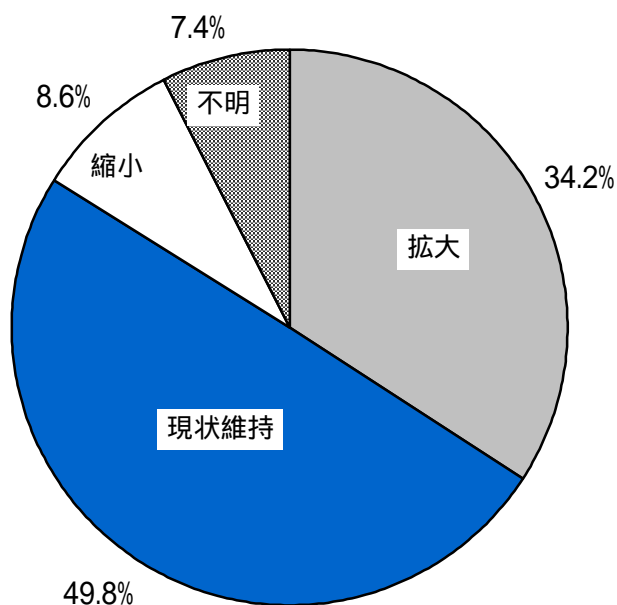
(2) 創業やベンチャー企業のために有効と思われる支援策（複数回答）

「公的融資の拡充」(55.0%) が最も多く、次いで「助成金・補助金の拡充」(47.8%)、「税制面の優遇措置」(47.4%)、「債務保証」(25.5%)、「販路開拓の支援」(25.0%)、「取引先の斡旋」(21.6%)、「技術開発の支援」(20.9%)の順となっている。



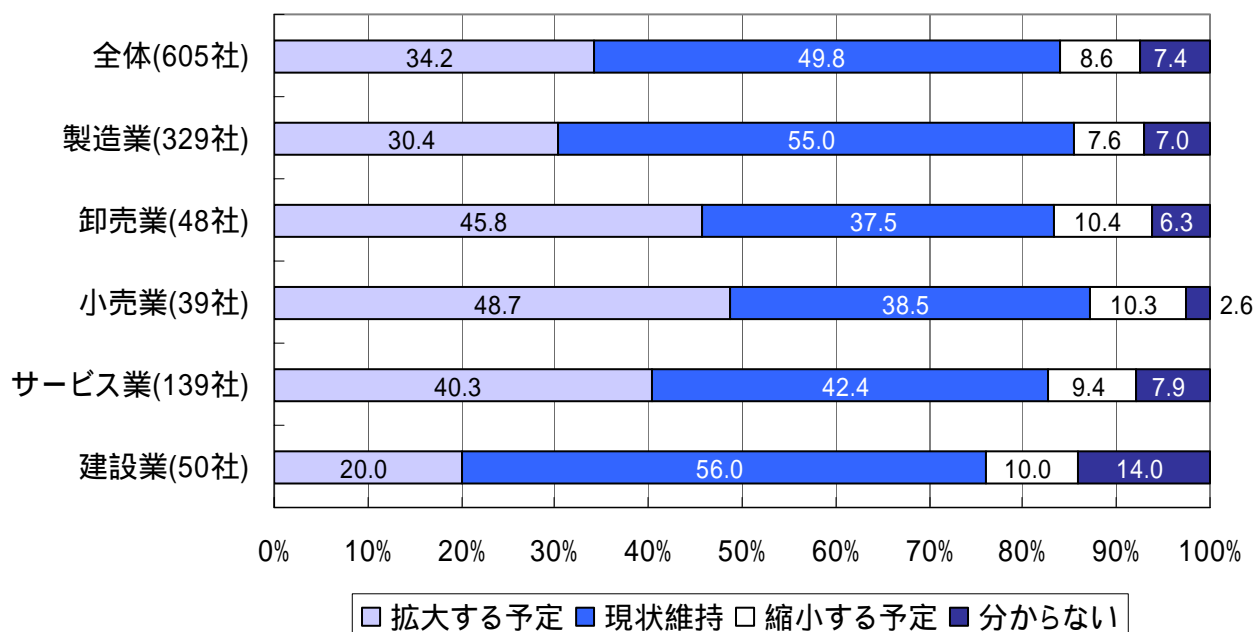
5 今後の事業規模について

半数の企業が現状維持、3分の1が拡大予定と答えている。



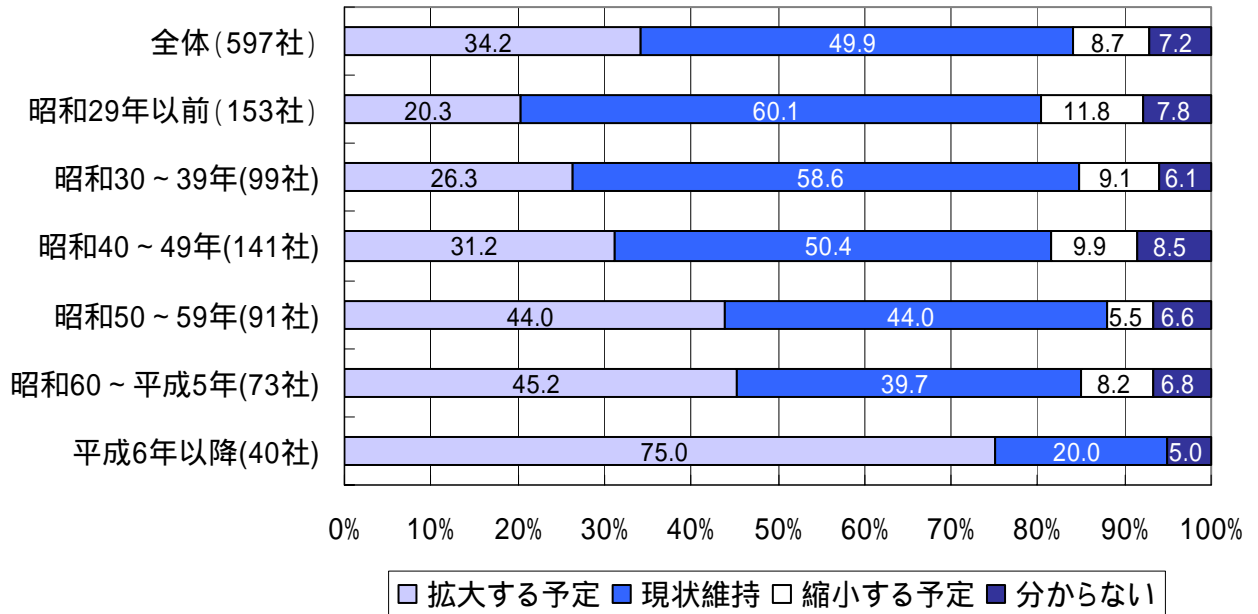
(1) 業種別

「拡大する予定」と回答した企業の割合は小売業（48.7%）、卸売業（45.8%）、サービス業（40.3%）で高く、建設業が最も低い（20.8%）。



(2) 創業年度別

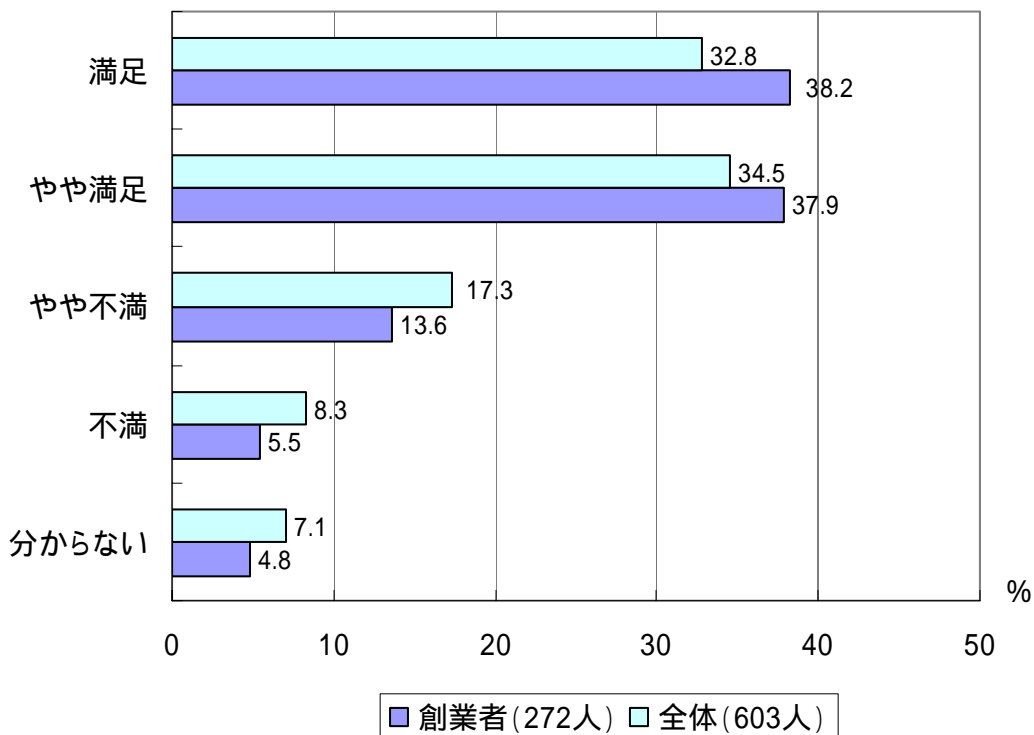
創業年度が新しいほど、拡大予定の企業が多い。



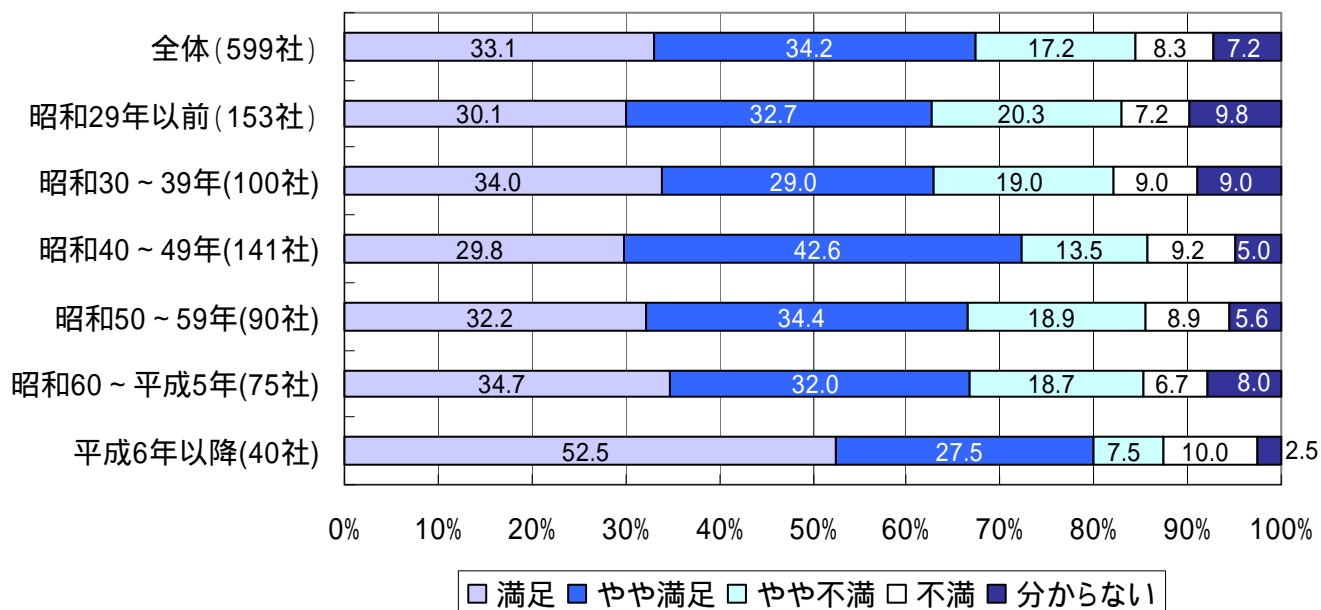
6 経営者になった満足度について

おおむね 3 分の 2 以上の経営者が満足またはやや満足と答えている。一方、不満またはやや不満と答えた経営者はおよそ 2 割であった。

なお、創業社長の満足度は 2 代目社長より高く、およそ 4 分の 3 以上が満足またはやや満足と答えている。特に平成 6 年度以降に創業した経営者の満足度が高い。



(創業年度別の満足度)



7 自由意見

- ・ 創業・開業を発展につなげる段階での支援が必要である。
- ・ 中小企業への融資制度はたくさんあるが、全て銀行が窓口になっているため銀行の信用が無い限り資金調達は出来ない。
- ・ 規制緩和・撤廃（例えば、建蔽率、容積率をはずすなど）により、新しい需要が生まれる。
- ・ 零細企業ではそれなりの人材しか集められない。教育して戦力にしていくには時間がかかり、不景気であっても人材不足に悩まされている。
- ・ ラジオで中小企業がどんなに良い製品を開発しても、販売を軌道に乗せることが困難であるということを知った。創業者には「のれん」がない。創業者への支援は、如何にして早く社会に認知させるかということを考える必要がある。
- ・ 小規模でスタートした場合コスト面で発展までに時間がかかり、能力のある人材の確保も難しい。そのため特殊な技術が無ければ企業として存続できない。こうしたリスクが開業率低下につながっている。
- ・ 公的機関はあまりにも手続きが複雑で規制が多く、時間と手間がかかる。結果として、ベンチャー企業には使えなくなっている。
- ・ 創業時のリスクは自己責任であるため、事業の立ち上がり 3~5 年間の税制面での優遇措置があっても良い。
- ・ 最近ビジネス興亡のサイクルが短くなってきており、多くの資金を必要とする事業では元本を回収できないのではないかと。アイデアやクリエイティブなセンスで勝負する分野が今後期待できる。
- ・ 色々ある助成金や補助金の情報の収集が出来ない。
- ・ 創業したいと思う精神性（社会的環境）を育てる。
- ・ 県はベンチャー育成といいながら、入札資格に関して 2 年未満の企業には門戸を閉ざしている（実質的には 2 年分の決算書が必要になるので最長 3 年になる）。このことなどが象徴しているように形式的な面が多すぎる。
- ・ 創業は一人で行う場合と何人かで行う場合では全く異なる。創業の妨げとなる項目も気構えも違ってくる。
- ・ 創業時点での経済環境と資金が一番の問題点となる。創業しても顧客ニーズを得なければ失敗するだけである。したがって経済状況をよく読み、会社設立に向かって確実な準備（製品が売れるか、資金調達が出来るか、良い人材をあつめられるか）をしなければならない。
- ・ 意識やスキルの低い経営者が多すぎる。自己を反省しないで世間のせいにして嘆いている人が多い。真の経営者は今が最大のチャンス。脱サラも見通しの甘さが失敗につながり、安易な助成は考えるべきだ。

創業に関する調査のお願い

調査内容については、個票のまま
公表することは絶対にありません。

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

近年、開業率の低下が懸念される中、経済に活力を与える新規創業や新分野進出への期待が高まっています。そこで、当センターでは新事業展開等に関する各種施策を効果的に推進するため、県内中小企業における創業時の状況等について調査を実施することになりました。

ご多用中のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願いいたします。

つきましては、本調査票を同封の返信用封筒により、**2月28日(金)**までにご回答くださいますようお願い申し上げます。

(財)栃木県産業振興センター
理事長 渡邊 利一

貴社の概要についてお伺いします【全ての方がお答え下さい】

業 種	1. 製造業 2. 卸売業 3. 小売業 4. サービス業 5. 建設業 6. その他()
創業年度	1. 昭和29年以前 2. 昭和30~39年 3. 昭和40年~49年 4. 昭和50年~59年 5. 昭和60年~平成5年 6. 平成6年以降
資本金	1. 個人 2. 500万円未満 3. 500~1000万円未満 4. 1000~5000万円未満 5. 5000万円以上
従業員数	1. 10人以下 2. 11~20人 3. 21~50人 4. 51~100人 5. 100人超

経営者ご自身についてお伺いします【全ての方がお答え下さい】

問1 あなたの性別は?【1つに 印】

1. 男 2. 女

問2 あなたの年齢は何歳ですか【1つに 印】

1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代
4. 50歳代 5. 60歳代 6. 70歳以上

問3 あなたは会社の創業者ですか【1つに 印】

1. 創業者である 2. 二代目以降

問4 あなたが今の会社の社長に就任したのは何歳ですか【1つに 印】

1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代
4. 50歳代 5. 60歳代 6. 70歳以上

問5 あなたのこれまでの経歴は次のうちどれですか【いくつでも 印】

1. 現在と同業種又は関連業種の大企業 2. 現在とは異なる業種の大企業
3. 現在と同業種又は関連業種の中小企業 4. 現在とは異なる業種の中小企業
5. 先代が経営する会社 6. 別会社を経営
7. なし 8. その他()

問6 今までに勤務した企業数(個人事業者を含む)は次のうちどれですか【一つに 印】

1. 1社 2. 2社 3. 3社 4. 4社 5. 5社以上 6. 勤務歴なし

問7 経営者になるために特に力を入れたことは次のうちどれですか【いくつでも 印】

1. 自分で技術や技能・経営ノウハウを学んだ
2. 学校(大学・専門学校等)で技術や技能・経営ノウハウを学んだ
3. 別会社で、必要な知識や技術・ノウハウを身につけた
4. 一緒に事業をやってくれる仲間を集めた 5. 市場のリサーチをした
6. 起業家セミナー等の研修に参加した 7. 開業資金を貯めた
8. 特になし 9. その他()

経営全般について【全ての方がお答え下さい】

問8 最近3年間の売上高の状況は次のうちどれですか【一つに 印】

1. 増加傾向 2. 横ばい 3. 減少傾向

問9 貴社の事業の優位性として考えられるものは次のうちどれですか【いくつでも 印】

1. 商品の品質・性能 2. 商品のコスト
3. 商品の市場供給対応力 4. 商品・サービスの企画・開発
5. 他社に真似できない技術 6. マーケティング力や営業力
7. 従業員の仕事に対する意識の高さ 8. 情報の収集や分析
9. その他()

問10 現在、特に力を入れている活動は次のうちどれですか【いくつでも 印】

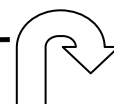
1. 新商品開発 2. 新技術開発 3. 既存商品の改良
4. 新分野進出 5. 新宣伝戦略の導入 6. 海外進出
7. 販売・顧客管理等の手法の導入 8. 社内体制における新体制の導入
9. その他()

問11 現在、直面している問題点は次のうちどれですか【いくつでも 印】

1. 経営ノウハウの不足 2. 資金調達・金融機関との交渉 3. 事業立地の選定
4. 事業計画・経営戦略 5. 販路の開拓・マーケティング 6. 人材の確保・育成
7. 商品開発力・技術の不足 8. 財務管理・企業業績の評価 9. 外部との提携
10. 後継者の確保・育成 11. 需要に合わせた供給能力の確保 12. 特になし
13. その他()

お問合せ先 情報研修部情報支援課 担当:池亀
TEL 028-670-2605 FAX 028-670-2611

裏面に続きます



*問3で【1. 創業者である】と回答された方は引き続き問12へお進み下さい。【2. 2代目以降】と回答された方は問18へお進み下さい。

創業について【創業者の方のみお答え下さい】

問12 創業の目的は次のうちどれですか【最も当てはまるものを3つまで】

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 自分の夢や理想が実現できる | 2. 自分の技術や資格、能力を活かせる |
| 3. 働きに応じた収入を得られる | 4. 事業経営の面白さを味わいたい |
| 5. 自分の裁量で仕事がしたい | 6. 社会に貢献したい |
| 7. アイデアを事業化したい | 8. 経営者として社会的評価を得たい |
| 9. その他 () | |

問13 創業に踏み切った直接のきっかけは次のうちどれですか【いくつでも 印】

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 勤務先の倒産や人員整理等があった | 2. 経営上のパートナーが見つかった |
| 3. 資金面の支援者が現れた | 4. 創業に必要な免許や資格などを取得した |
| 5. 以前から進めていた開業準備が整った | 6. アイデア、ビジネスチャンスが見つかった |
| 7. 取引先や知人からの勧誘があった | 8. 家庭の事情があった |
| 9. 定年退職した | 10. その他 () |

問14 現在の事業分野を選定した理由は次のうちどれですか【いくつでも 印】

- | | | |
|-----------------|----------------|-------------------|
| 1. 社会に貢献できる | 2. 成長性が見込まれた | 3. これまでの経験が生かせる |
| 4. これまでの人脈を活かせる | 5. 小額の資金で創業できる | 6. 高収入が見込める |
| 7. この仕事が好き | 8. 同業他社がない | 9. 自分の技術・知識等を活かせる |
| 10. その他 () | | |

問15 創業費用は次のうちどれですか【一つに 印】

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 500万円未満 | 2. 500万円以上1,000万円未満 |
| 3. 1,000万円以上~1,500万円未満 | 4. 1,500万円以上~2,000万円未満 |
| 5. 2,000万円以上~5,000万円未満 | 6. 5,000万円以上 |

問16 創業時の資金調達先は次のうちどれですか【いくつでも 印】

- (出資) 1. 自己資金 2. 親・兄弟・親戚等 3. 友人・知人等
4. 取引先 5. 事業に賛同してくれた個人・法人 6. ベンチャーキャピタル等
7. その他 ()

- (借入) 1. 親・兄弟・親戚等 2. 友人・知人等 3. 民間金融機関
4. 取引先 5. 政府系金融機関 6. 地方公共団体の融資制度
7. 事業に賛同してくれた個人・法人 8. ベンチャーキャピタル等
9. その他 ()

問17 創業時の問題点は次のうちどれですか【いくつでも 印】

- | | | |
|-----------------------|--------------------|-------------|
| 1. 資金の調達 | 2. 取引先の開拓 | 3. 市場の調査・分析 |
| 4. 人材の確保 | 5. 開業に伴う各種手続き | 6. 事業分野の選定 |
| 7. 事業分野における規制の存在 | 8. アイデア又は事業シーズの商品化 | |
| 9. 経営全般に必要な知識・ノウハウの習得 | 10. 特にない | |
| 11. その他 () | | |

開業・創業について【全ての方がお答え下さい】

問18 開業率低下、創業の妨げになっていると思われる理由は次のうちどれですか【いくつでも 印】

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 失敗時のリスクが大きい | 2. サラリーマン志向が強い |
| 3. 競争が激化している | 4. 規制等によりビジネスチャンスが少ない |
| 5. 創業のための資金調達が困難 | 6. 事業のタネがあまりない |
| 7. 家族の理解・協力が得られない | 8. 高度な専門性が必要となっている |
| 9. 創業にまつわる知識がない | 10. 共同してやってくれる人材がいない |
| 11. その他 () | |

問19 創業者やベンチャー企業のために有効と思われる支援策は次のうちどれですか

【いくつでも 印】

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1. 助成金・補助金の拡充 | 2. 公的融資の拡充 |
| 3. 税制面の優遇措置 | 4. 債務保証 |
| 5. 販路開拓の支援 | 6. 技術開発の支援 |
| 7. マーケティングの支援 | 8. 人材育成のための教育研修 |
| 9. 他企業との交流の場の提供 | 10. ベンチャーキャピタルとの出会いの場の提供 |
| 11. 教育・研究機関との共同研究 | 12. 研究シーズと消費者シーズのマッチング |
| 13. 取引先の斡旋 | 14. 人材の紹介・斡旋・派遣 |
| 15. 機械設備や備品の貸与 | 16. 貸オフィス、貸研究施設等の提供 |
| 17. その他 () | |

最後にお聞きします【全ての方がお答え下さい】

問20 今後の事業規模の予定は次のうちどれですか【一つに 印】

- | | | | |
|-----------|---------|-----------|-----------------|
| 1. 拡大する予定 | 2. 現状維持 | 3. 縮小する予定 | 4. 決めていない・分からない |
|-----------|---------|-----------|-----------------|

問21 あなたは経営者になって満足していますか?【一つに 印】

- | | | | | |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. 分からない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

ご意見ご要望等がございましたらご自由にご記入下さい

ご協力いただき誠にありがとうございました